

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名：児童デイサービスおひさまはうす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・活動とエリアをセットにすることで、その場所に行けばなにを期待されているのかわかるようにしている。	・少し手狭になってきているため、近くの地域資源を活用したりし、各利用者の目標に沿って人数を適度に調整する等の工夫を検討中。
	2	職員の配置数は適切である	○		・指導員加配(保育士)に加え、利用人数が多い日はさらにもう1名スタッフを配置している。	・今の状況を継続できるようにする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・トイレや玄関などはスロープがある。家具の配置を日々調整している。	・建物自体の老朽化もあり、蛇口がしめにくいなどある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・必ずその日に振り返りの会議を実施している	・スタッフミーティングの際に、それぞれの優先課題を確認し、月単位で計画的に関わることができるような工夫をする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・日々の送迎時や場合によっては電話連絡で保護者の意向を確認し、関わりかたや視覚支援を見直している	・評価表だけでなく、モニタリングの際や、担当者会議も含め、こまめに保護者の方からニーズを聞き取るようにする。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			・今年度からの開所のため、これまでに評価表などを公表した実績はまだないが、作成後に公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	○	・事業所の連絡会などで見学を受け入れたり、民生委員の方に事業所の役割を伝えている。	・知ってもらったための工夫はしているが、具体的な評価までにはつながっていないため、今後は他機関に所属している理事にお願いすることも検討す
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・朝の会議と必要に応じてテーマに沿った研修を行っている	・内部研修は月に1回ペースで実施。今後は予算の兼ね合いを見ながら外部の研修にもこれまで以上に参加し
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・簡易の評価キットを実施している	・他にも現場でできる評価ツールを検討する
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	・医療機関で実施された方については結果報告書をコピーさせていただき、日々の支援に反映させている。	・予算の兼ね合いを見てツールを購入するか、評価できる人を招聘して依頼するなどを検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・常に話し合いや相談を行っている	・子ども、保護者対応と記録の2役に分けて対応していくことを検討中。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・自立してできることがあれば、それを活かして他の活動に般化していく	・グループ活動が少ないので、今後は同年代のメンバーとゲームや調理をするなどのプログラムも検討していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・平日は個々のニーズにあったテーマ、土曜は外出中心。また同じく土曜に個別療育を実施し、保護者と一緒に本人の状況を確認できるようにしている。	・平日のプログラムがある程度固定されてしまっているため、今後はバリエーションを増やしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	○		・誕生日、イベント、外出プログラムなどを月1回程度実施しているが、機会としては少ない。	・グループ活動が少ないので、今後は同年代のメンバーとゲームや調理をするなどのプログラムも検討していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・個々のスケジュールを見て重要な点、評価のポイントの確認を毎朝実施している	・今後は指示系統を整理し、より円滑にスタッフ間でもコミュニケーションがとれるよう工夫する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・時間のある限りその日にあったことや次へのアイデアを共有している	・その日の勤務にあたっていないスタッフとのやり取りに関しては、実施状況の記録を活用する形で共有することを実施中。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・それぞれの目標に沿った記録用紙を作成し、使用している	・優先課題と記録のポイントをスタッフ間で日々共有しておくことで、ただ書くだけの記録にならないよう工夫していく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・モニタリング用紙を作成し、現状を保護者に伝え、支援計画の見直しを行う際は、面談をして確認している。	・面談時間の調整に時間がかかったため、今後は面談時間を設けるなどして事業所と保護者の予定を調整しやすくすることを検討中。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている		○	・本人主体の基本活動を中心とし、様々な領域の活動に取り組んでいる。	・地域支援と保護者支援に足りない点があると感じるため、今後は面談枠を設けたり、地域活動を増やせるようにする。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・毎回児発管が参加している	・今後は児発管と現場スタッフが同行することで、他機関との連携強化や、事業所での支援方法を他機関に説明することでスタッフのスキルアップにもつなげていく。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・送迎時間の情報共有については適時電話連絡をしているが、具体的な計画の確認等は保護者を通して確認することが多い。	・特にこれまでトラブル等もなく、学校側とも関係も良好と感じている。現在の協力体制を継続していく。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				・現在医療的なケアが必要な方の利用はないが、必要となった場合は密に連携をとれるよう児発管が保護者と一緒に出向くなどの体制を検討しておく。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		・現状関わっている方とのやり取りが中心で、経過の確認は保護者から行っている。	・現在は年長で、4月より小学校に上がる方がいるので、今のうちから聞き取りをしておき、つながりをもっておく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				・現在卒業生がいないため、実績はない	・現状の特性やスキルをまとめておくためにも、簡易の成人版評価キットを使用し事業所としての情報をまとめておけるようにする。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			・支援センターの研修に参加している	・今後も継続していく。また、県発達障害支援センターとのつながりを持つことができるような機会も検討していく(研修に参加するなど)。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			・法人事業に参加する形で交流を図っている	・児童デイの中での活動でも
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			・町から依頼を受け、連携体制を構築している	・今後も継続していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	○		・個別療育を利用する方については定期的に詳しく伝えているが、その他の方については送迎時や連絡町で確認する程度になっている状況。	・日頃の過ごし方についての聞き取りを強化し、本人の様子と保護者の方の気になる点を周囲で共有していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	・現状は実施できていない、	今後テーマを検討していく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・質問があれば都度説明している。変更がある場合はかならず直接やり取りしている。	・変更があった場合、書面で確実に伝えるようにする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・個別療育を利用する方については定期的に詳しく伝えているが、その他の方については送迎時や連絡町で確認する程度になっている状況。	・面談枠の拡充を検討していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	・中々実施できていない状況がある。	・研修階後に保護者会を実施するなど集まりやすいタイミングで実施することを検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	○		・個別に対応することはできているが、全体への周知が必要なことについては不足している部分があると感じている(例:家庭訪問ができると知らなかった方がいたなど)	・利用できるプログラムの整理をし、保護者が選択しやすいような様式を検討していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している			○	・年に1回会報を作成している	・もう少し定期的に情報発信をできるように検討する。
	35	個人情報に十分注意している	○			・当然ではあるが、施錠の徹底。請求の際は、個人を特定できない表記の仕方になっている。	・担当者会議等で記録を持ち出す場合は、だれがいつどんな使用目的で持ち出すのか記入できるような様式を作成する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・書いてやり取りをしている。	・コミュニケーションについてはかなりニーズが高いので外部の講師を招聘するなどして、研修会と保護者会を兼ねるなどの工夫を検討中。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			・法人事業の一環で様々な方も参加できる企画を実施している。	・スタッフの特技(リトミックの資格を取得したスタッフなど)を活かして地域の子どもたちも参加できるような企画を検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	・マニュアル等は作成し、職員にも周知を徹底している。	・保護者への案内、想定した訓練までできていない状況があるため今後検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	・避難経路の動線を確保している。	・頻度が少ないと感じているので、機会を増やすことを検討する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	・月に1回研修を実施している。また、指示の仕方の整理(指示の階層)を行っている。	・促すときに視覚的な手がかりを活用する、実物を見せるなど、関わり方の工夫を常にしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	・現状、身体拘束をする必要がある方がいないので特に記載はしていない	・今後そのような利用者がいた場合は確実に保護者に説明していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	・アレルギーについて、事前にチェックシートを使って確認している。	・現在は特別な配慮が必要な利用者はいないが、対応は徹底していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	・少しの気がかりでも作成するようにしている。	・記入した場合は必ずスタッフ回覧で目を通すようにしている。気を付けて見るというだけでなく、過ごし方の検討も含めて検討していく。